

令和6年3月8日 日本消防協会 「優良婦人消防隊受賞」坂本8区女性消防隊 ～歴史のまち大津市坂本地区から～

滋賀県大津市女性防火クラブ連合会

【はじめに】

大津市坂本8区女性消防隊は、日本最大の湖である琵琶湖の西側に位置する大津市の坂本にあります。坂本は、天台宗総本山比叡山延暦寺や全国3800余の日吉・日枝・山王神社の総本宮である日吉大社の門前町として栄え、一帯は重要伝統的建造物群保存地区に選定されており、穴太衆積みの石垣と里坊の町並みは歴史的価値のある地域です。

【最大の行事『山王祭』】

湖国三大祭りの一つである山王祭は、日吉大社の祭礼で1200年以上も続いています。3月の第1日曜日にはじまり、4月12日には「午の神事」、13日は「花渡り式」や「神輿振り」で有名な「宵宮落とし神事」、14日は東本宮、西本宮それぞれの「例祭」のち、まちを神輿が練り歩き、さらに湖上を渡る「神輿渡御」が行われます。この山王祭こそが坂本の皆にとっての最大の行事であり、それは女性消防隊の私たちにとっても同じです。まずは、神輿あげに参加する駕輿丁（神輿の担ぎ手）のために食事の手伝いをします。早朝から自治会館に集まり、お米5升を5回から6回炊いてあつあつの炊きたてのご飯を握ります。その数なんとおにぎり800個です。そして、おにぎりだけでなくやっぱり汁物もいるので、これは寸胴鍋2個にいっぱい作って、軽トラックに載せて運びます。その光景はまさに炊き出しそのものです。夜には、たいまつ衆と駕輿丁が山へ行く前に町内をたいまつを担いで練り歩きます。この時に活躍するのが私たちです。たいまつ衆の後ろをついて歩いて、地面に落ちたたいまつ火をジェットシューター（背負い式消火水のう）で消火します。水の入ったジェットシューターの重さは約20kgもあり、かなりの重労働ですが重要な役割ですので弱音は吐けません。最年長の隊員は80歳を越えますが、女性消防隊の意地もありますし、毎年続けてきたこの役割に誇りもありますので自然と体が動きます。この先も、歴史とともに女性消防隊の役割も伝統として残していきたい思いです。

【25周年と放水訓練】

坂本8区女性消防隊を1989年に設立して25周年を迎えた年、初代隊員のみなさま・自治連合会長・地元坂本分団の方々をお招きして食事会を開催し交流を図りました。また、2012年には本格的な放水訓練を地域のみなさまに披露する場を設けていただき、「整列、なおれ、きをつけ、番号、操作はじめ、おさめ、整列、点検報告、右向け右、駆け足退場」と何度も何度も繰り返して本番前日までみんなで訓練し

ました。ところが、当日は気象警報が発令され残念ながら中止となりました。けれども、この訓練から得た技術と消防精神は、年月を経ても身体に染みついており、現在の活動に生かされています。

【この先も】

今年、大津市は大河ドラマ「光る君へ」や本屋大賞の大賞受賞作「成瀬は天下を取りにいく」など女性が目玉に輝いています。坂本8区女性消防隊は、この歴史的なまち坂本で1年を通した日常の夜回りや消火活動だけでなく、山王祭、氏子の祭り、夏まつり、びわ湖一斉清掃など地域の方々とともに地域活動に取り組んでまいります。

～女性の視点を活かした地域防災力の充実強化～

【大津市女性防火クラブ連合会（徳永恵美子会長）】

当連合会は、1987年に発足いたしました。大津市の地域を北・中・南・東の4ブロックで構成しております。活動としては、クラブ員が一同に会して行う全体研修やブロックごとに行うブロック研修を開催し、放水訓練、救命講習、避難所運営訓練など有意義な研修を開催しております。また、大津市総合防災訓練や消防出初式に参加し、女性防火クラブの活動紹介や住宅用火災警報器の普及啓発なども行っております。

今後も、「家庭防火は女性の手で」を合言葉に私たちの出来ることに頑張ってまいります。

今回、優良婦人消防隊受賞の坂本8区女性消防隊が所属する中ブロックのほか北ブロック、南ブロック、東ブロックの活動とともに私たちが思いを込めて発行を続けております広報誌について、紹介させていただきます。

～夜回りでつなぐ絆～

【北ブロックは（藤上佐千子副会長）】

柳田女性消防隊は、大津市の北部に位置する堅田地区の柳田自治会にあります。湖族の郷と称され神社、仏閣が数多くある昔ながらの地域で近くには湖に浮かぶ御堂「浮御堂」があります。

柳田女性消防隊は、1992年に設立され自治会の中の女性部が兼ねていました。夜回りが始まった時期は定かではありませんが2005年に私が部長になった年に、前任の方がやっておられたと聞き引き継ぎました。大津市女性防火クラブ連合会幹事会に行きだしたのもこの頃からです。何もわからないまま理事会にまで参加するようになり、その当時の会長が「自分たちの地域から火を出さない。」「家庭防火は女

性の手で。」と熱く語られていました。それに触発され夜回りが定着していったように思います。2016年には、自治会で女性消防隊の法被を作っていただきました。夜回りは、自治会の役員さんたちと拍子木をたたきながら満天の星を眺め町内を歩く。歩き出しは手がかじかみ吐く息が白い状態が終了時には身体がほかほかあたたかい。そんな温かい気持ちになれるのは何げない充実感なのか。引き継いでいただくと後継者不足はどこも同じでしょうが続けていきたい思いを込めて「火の用心」。

～防災対策もアップデートを～

【南ブロックは（松田ふみ副会長）】

石山寺辺女性自衛消防隊が属する大津市女性防火クラブ連合会南ブロックは、大津市の南部に位置し、2024年NHK大河ドラマ「光る君へ」で話題の石山寺の周辺にあります。女性自衛消防隊員は、自治会員が2年交代で任命され約60名で構成されています。この地域は、膳所断層の南に位置することから、阪神淡路大震災後は、琵琶湖の西岸に連なる断層が動く確率がかなり高いとされ注意喚起されました。

発足は1981年3月1日、なんと大津市女性防火クラブ連合会発足の6年も前から活動しています。初代隊長は、大津市女性防火クラブ連合会の初代会長を務めました。発足当初の44年前から「初期消火」を第1目的とし、平時にあっては防火思想の普及及び高揚に努めることを目的とし、初代隊長から4代目の私まで、地域の皆様のご協力ご理解のもと活動が続いてこれたと感謝しています。昨今は火災だけでなく、地球温暖化の影響なのでしょうか台風などの自然災害が大型化し、さらに南海トラフ地震の起こる確率が高まりつつあるなか、初期消火はもとより防災知識等にも目を向けて啓発しているところ

～近隣愛の大切さ～

【東ブロックは（西村ひとみ副会長）】

現在15隊、111名の隊員が活動しています。東ブロックの特徴として、自治会の役員の一つとして女性消防隊があり1年ごとに交代する地域もありますが、長年にわたり活躍している隊は地元消防団と協力して消火栓点検や放水訓練を実施しています。また、高齢化が進んでいる地域では、消火器や住宅用

火災警報器の共同購入の呼び掛けや、大津市女性防火クラブ連合会の一員として研修会や行事、イベントに参加することで防火・防災に関する知識を学んでクラブ員同士の親睦を深めています。これからも、女性防火クラブ連合会を応援して頂けるような方を、活動を通して少しでも増やしていきたいです。

～困った時、さりげなく心の触れ合える友人関係。その線にある女性消防隊～

【大津市女性防火クラブ連合会広報誌「赤バケツ」】

大津市女性防火クラブ連合会には広報誌があります。その名は「赤バケツ」。1987年10月、大津市・志賀町婦人防火クラブ連合会が発足され、1989年10月、89レディース防火大会の開催を契機とし、1990年10月26日に大望の第1号を発刊することが出来

ました。第6号からは、阪神淡路大震災の発災により防火だけでなく防災研修などについても掲載し、交流のあまりなかった地域とも意見交換できるようになりました。1999年2月、1999年から2000年へと大きな節目の年に「赤バケツ」発刊から10年、第10号をカラー印刷に変更し大津市各自治会に配布し防災の輪を広げています。2006年3月には大津市と志賀町が合併し名称を「大津市女性防火クラブ連合会」に変更し、新しい1歩を踏み出しました。台風、地震、新型コロナウイルス感染症などいろんなことがあった34年でしたが防火クラブ連合会の根源である「家庭防火は女性の手で」を合言葉にこれからもクラブ員が協力し合い活動に取り組んでまいります。



山王祭

山王祭 ジェットシューターで初期消火



令和6年優秀賞受賞坂本8区女性消防隊



大津市消防出初式



広報誌「赤バケツ」1号、10号